

令和6年5月27日

丹後農業改良普及センター

台風1号接近に伴う農作物等の技術対策について

気象庁によりますと、台風1号は5月27日現在フィリピン島北東部を北北東に進み、5月31日頃に近畿地方に接近する見込みです。台風の接近に伴い、日本海側にも暖かく湿った空気が流れ込み、雨雲が発達して雨が強まる恐れがあります。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に十分注意してください。

台風接近までに、以下の技術対策事項を参考として、事前の対策に備えていただくようお願いいたします。

1 水 稲

(1) 通過前

台風の強風による暖かく乾燥した空気で葉が乾燥することを防ぐため深水管理に努めるとともに、稲が水没しないよう予め排水口を調節しておく。

(2) 通過後

- ①冠水している場合は、速やかにほ場からの排水に努める。
- ②植え付けから間がないほ場では活着不十分な苗が欠落していないか確認し、予備苗が手元にあり特に必要がある場合は補植を行う。

2 豆 類（「紫ずきん」を含む）

(1) 通過前

- ①必ず排水路、排水口等の点検を行い滞水が生じないようにする。

(2) 通過後

- ①浸冠水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病虫害防除を行う。

3 野 菜・花 き

(1) 通過前

- ①ハウス栽培については、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材破損部は補強し、しっかりと閉めきる。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。
- ②露地栽培については、支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかりと固定する。直播きでまだ生育初期のものは、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかりと固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。

(2) 通過後

- ①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ②液肥（500～1,000 倍程度）を施用し、草勢の早期回復を図る。
- ③風雨によって発生する傷から菌類が侵入し、病害が発生することが予想されるので、こまめに観察し、発生が確認された場合は発生初期に防除を行う。
- ④収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種や移植の直後で発芽不良・立ち枯れが確認された場合は、可能ならば播き直し、植え直しをする。

4 果 樹

(1) 通過前

- ①防風ネットは柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。果樹棚は周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないように補強しておく。また、棚の揺れ止め補強を行っておく。ハウス（雨よけ含む）では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。
- ②排水対策（明きよ等）をしっかりと行っておく。

(2) 通過後

- ①骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。不完全な場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。
- ②冠水した場合は、速やかな排水に努める。

5 茶

(1) 通過前

- ①傾斜地茶園では、浸食防止のため土壌表面のマルチや周辺排水溝の整備を行う。
- ②被覆棚では、ほどけた被覆資材が強風を受けて倒壊する恐れがあるため、被覆資材が支柱等へ確実に結束できているか確認する。
- ③製茶工場では、雨水が浸入しないように十分に点検する。
- ④病害発生が予想されるため、可能ならば銅剤等で襲来前の予防散布を行う。

(2) 通過後

- ①茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
- ②土砂が流入した場合は速やかに取り除く、また、表土が流亡している場合は早急に土入れを行う。
- ③強風等で茎葉が傷ついた場合は、輪斑病、炭そ病予防の殺菌剤を散布する。